

軽米病院だより

## ACP (Advance care planning) とは何？

県立軽米病院 院長 葛西 敏史

広報4月号で、ACPについて少し触れましたが、聴き慣れない言葉ですよ。厚生労働省の解説ではACPとは「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」とされています。つまり将来の意思決定について考えることです。

ここで大事なのは、“生あるものは必ず亡くなる”ということ。自分たちが小さいときには元気で頼もしかった親も、だんだん小さくなって、腰も曲がってきます。急

病などで命に関わるとき、親がどう考えていたのか？子供たちにどうして欲しいのか？について家族で話し合うことが大事です。面と向かって言いづらいこともわかります。親の死ぬことを考えるのは嫌だと言っても、時間は平等・残酷に過ぎていきますよ。人間の死亡率は100%ですから。

私は外来でよく皆さんに聞いていますが、ほとんどの方が子供たちには迷惑をかけずに「ピンピンコロリと逝きたい」とおっしゃいます。でも脳梗塞や認知症になってからは自分の考えを皆に伝えることはできないのです。ぜひ元気なうちに、みなさんと話し合っただけで欲しいです。